特別講演　3

小児外科医の診察室から　–子供達とともに–

青山 興司（独立行政法人国立病院機構岡山医療センター）

医師になって以来 38 年が過ぎました。卒後４年間は小児科医師として、更に 25 年間は小児外科医師として国立岡山病院で臨床一筋に医療を行って来ました。その後、川崎医科大学に移りほぼ７年間、小児外科教授として学生教育に従事しました。また、一昨年４ 月、独立行政法人国立病院機構岡山医療センター（前国立岡山病院）に院長として帰ることとなり、初めて病院経営に携わる事になりました。卒業以来ずっと子供の医療に携わってきたこともあり、小児の医療に力をそそぎ、現在本院は、小児科医師８名、新生児科医師６名、小児外科医師４名のスタッフに加え、レジデント８名の総勢 26 名の医師で小児医療を担っており、365 日 24 時間、一次、二次、三次救急、全てを受け入れる体制で医療を行っています。私自身は現在も小児外科医師として週２回の外来、週１回の手術を行っております。

基本的には私の医療行為のほとんどのは患者さんから得た経験の上に成り立っております。幸いにして多くの患者さんを診せていただき、多くの手術に参加することが出来ました。

小児外科は未だ発展途上にあり、議論の余地のある治療法、確立されていない手術術式も多くあります。そのため私も患者さんと共に悩み苦しみ、結果として、自分なりの治療法の確立、手術術式の考案、実施することが出来ました。これも私の所へわざわざ治療を受けに来てくれた子供達がいた事と多くの小児科の先生から患者さんをご紹介していただいた賜と思っております。今回の講演においては、小児科外来で比較的よく見られる小児外科的疾患に対しての私の考える治療法、悩んだ末に編み出せた手術法、外来に来る子供達への対応など、私の行っている医療の一端をお話する予定です。この講演が少しでも小児科の先生の日常診療の役に立てば幸甚に思っております。

【年次集会事務局からのヒトコト】
MTE「他科の聞きたいシリーズ」の小児外科としての講演でもあります。小児科外来や健診で経験する小児外科疾患への対応など、日常診療にも役立つこと、請け合いです。